

ヒオモン水溶剤による リンゴ「ふじ」の裂果軽減効果と使用上の留意点

近年、リンゴの主力品種「ふじ」で、夏期の集中豪雨などが原因と考えられる裂果（外部裂果「つる割れ」や内部裂果）の増加が見られるようになってきています。裂果による販売価格の低下は生産者にとって重要な問題となっています。そこで岩手県農業研究センターでは、植物生育調節剤の1-ナフタレン酢酸ナトリウム水溶剤（ヒオモン水溶剤）による裂果軽減効果を調べ、使用上の留意点を明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. ヒオモン水溶剤 3000 倍希釈液を満開後 20～30 日後に、立木全面に 1 回散布しました。使用液量は 300～600L/10a となります。
2. リンゴ「ふじ」で、裂果が多く発生する年において、ヒオモン水溶剤、満開 20～30 日後の散布は、裂果を軽減させる効果が見られました（図 1）。
3. 「ふじ」のヒオモン水溶剤散布区の果実品質と無処理区とに差は見られませんでした（表 1）。また、連年散布後の花芽率にも差は見られませんでした。

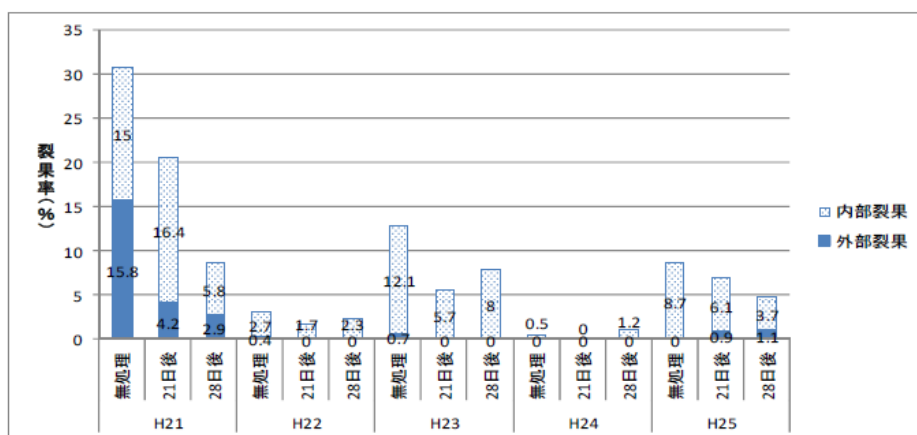


図 1 ヒオモン水溶剤散布樹の裂果割合（ふじ）
収穫期に全果実を割り、裂果状況を調査（各区 2～4 樹の平均値）

表 1 果実品質（ふじ）

試験区	果重(g)	硬度(lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	地色 (指数)	果皮色 (指数)	ヨード反応 (指数)
無処理区	309	16.3	16.1	0.42	5.3	5.2	0.9
21日後区	310	16.8	16.3	0.45	4.8	5.5	0.9
28日後区	333	16.9	16.4	0.46	5.0	5.5	0.8

※ 平成 22 年～平成 25 年の平均値

☆ 活用面での留意点

1. ヒオモン水溶液は単用で散布して下さい。新梢の葉が巻くエピナスティ症状が出ますが、1 週間程度で回復します。
2. 摘果剤の効果を抑制することがあります、また、果実肥大が抑制されることがあります。
3. 詳しくは、岩手県農業研究センター技術部 果樹研究室 (TEL:0197-68-4419) にお問い合わせ下さい。

（農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田雅人）